

形式手法を用いた プロダクトライン検証手法の研究

(株)日立製作所

加藤 正恭

tadahisa.kato.en@hitachi.com

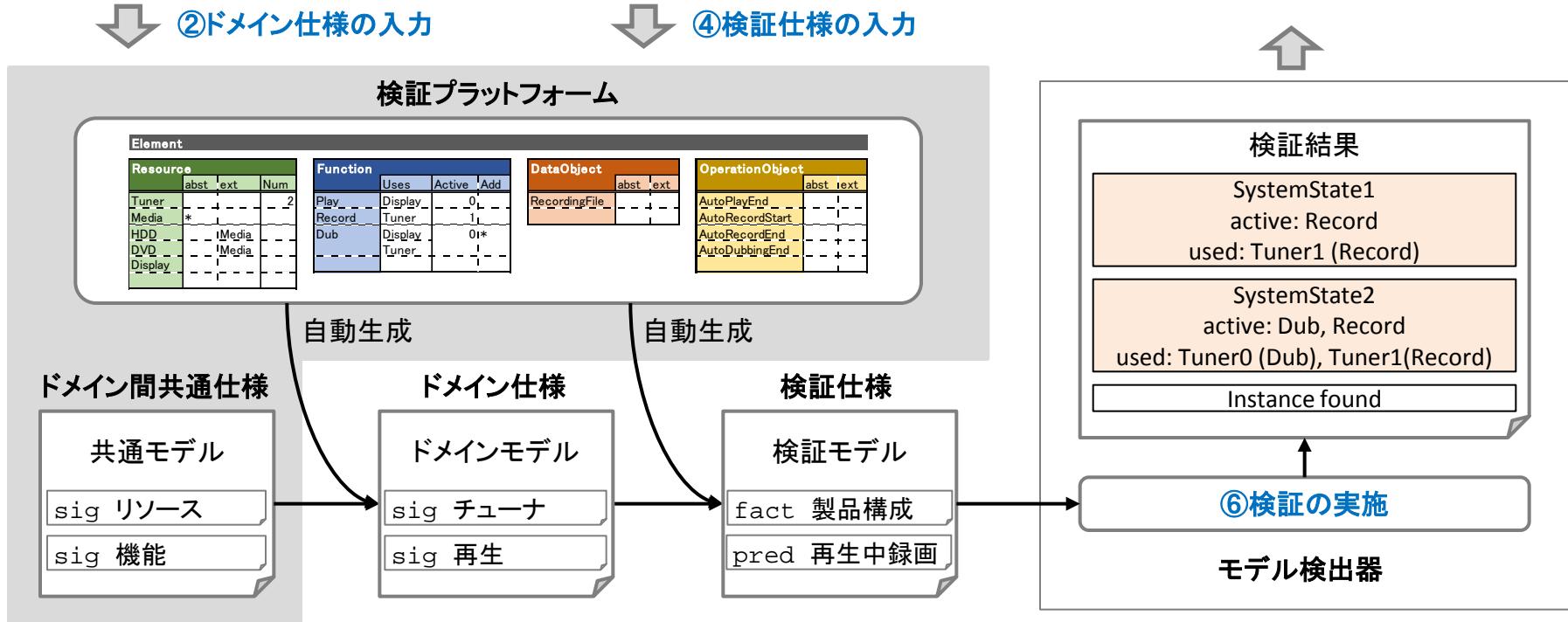
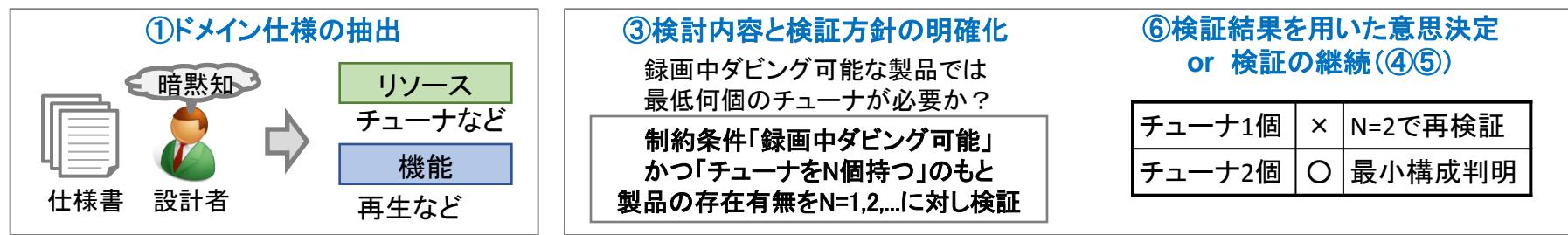
開発における問題点

- 製品の多機能・高機能化に伴い、ソフトウェアが複雑化し検証困難になっている
- プロダクトライン型開発が普及し、製品バリエーションが増加する中、検証対象が「単一製品」から「複数製品群」に拡大
- 形式手法のメリットは理解されつつも、技術的難しさなどもあり依然導入障壁が高い

手法・ツールの適用による解決

- プロダクトライン型製品開発に形式手法を適用し、仕様検証および製品ラインナップ決定支援を行う(機能の動的リソース占有と同時動作可能性に着目)
- 形式手法適用支援環境を構築し、開発現場への導入障壁を低くする

提案手法の概要



適用評価



手法実現性	単一製品検証	機能の追加実行可能性検証	
	製品ラインナップ決定支援	製品構成を与えたときの機能同時動作実現性検討支援	○
		実現する機能同時動作指定時の必要製品構成検討支援	○
		試作した検証プラットフォームの適用可能性	○